

講義名	コーチング論			
担当教員	内田 遼介			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

本講義では、アスリートのコーチングに関わるトピックについて幅広く学ぶ。具体的には、スポーツ指導者に求められるコーチングの理念や哲学といったトピックから、実際のスポーツ指導場面において重要となるトレーニングの組み立て方、行動変容を促す指導方法など実践的なトピックまで幅広く解説する。講義の後半では、特定のスポーツ指導者を各自で選択してもらい、当該指導者がいかなる点で優れているのかについて考察、他の学生に対して説明することを求める。

**到達目標**

実際に活躍しているスポーツ指導者について、何が優れているのかコーチングに関する諸理論から他者に説明することができる。コーチングに関連する知識を自らの実践活動に活かすことができる。

**提出課題**

- 講義終了後の感想・質問の提出
- プレゼンテーションに関連する資料の提出

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

- 毎週、講義内容に関する感想や質問を提出してもらい、提出された感想や質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を使って紹介・解説をする。
- プレゼンテーションについては、発表終了後に担当教員から素晴らしい点や改善点などについて一言フィードバックをする。さらに、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価は集約したうえで、担当教員から各学生にフィードバックする。

**評価の基準**

- 第14回目・第16回目に提示する課題（30%）
- 第11回目の理解度確認テスト（20%）
- 第12回目のレポート（20%）
- 第14回目・第15回目のプレゼンテーション（30%）

**履修にあたっての注意・助言他**

- <対面・オンデマンド共通>
- 講義中にコーチング場面における反倫理的行為(暴力、暴言、セクシュアル・ハラスメントなど)に関わる事例を取り上げることがある。このような事例を聴きたくない学生については事前に相談すること
- 第14回目と第15回目のプレゼンテーションについては、原則1名ずつの発表を予定しているが、受講生の人数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。
- 基礎能力(パソコンの基礎)や情報処理入門などの講義を通じて、ある程度パソコンの操作(ファイルの保存方法など)やPowerPointの操作に慣れておくことが望ましい。
- <オンデマンド>
- オンデマンド授業で受講する学生については、第14回目までに各自でプレゼンテーションを録画してOneDrive上にアップロードすることを求める(予定)。そのため、オンデマンド授業で受講する学生については、自宅内にパソコンを使用できる環境があり、かつパソコン上でOfficeソフト(特にPowerPointとWord)やWeb会議アプリ(SkypeやZoomなど)を使いこなせるスキルを有していることが望ましい。
- 授業の動画については原則、Microsoft Stream上に各自アップロードする。一定期間経過後は視聴不可になるので、必ず指定期間中に視聴したうえで課題と感想・質問を提出すること。

教科書	.グッドコーチなるためのココロエ.	平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和	培風館	2400	9784563052522

**プリント資料及び参考文献**

- <プリント資料>
- 対面授業の学生については担当教員が資料を印刷して当日配布する。
- オンデマンド授業の学生についてはMicrosoft OneDriveに講義前日までに資料をアップロードするので各自印刷して保管すること。
- <参考文献>
- シュミット, R.A. 調枝孝治(監訳)(1994). 運動学習とパフォーマンス 大修館書店

**授業計画**

- 授業ガイダンス、イントロダクション: コーチングの理念・哲学
- コーチング(1): トレーニングの原理・原則、トレーニングの思考・行動サイクル
- コーチング(2): 体育発達に合わせたコーチング、女性アスリートへのコーチング
- コーチング(3): 観察学習、データと言語能力の重要性
- コーチング(4): 効果的なフィードバック方法
- アスリートの健康(1): アスリートの体力
- アスリートの健康(2): アンチ・ドーピング
- コーチングにおける倫理(1): 倫理的なコーチングについて考える
- コーチングにおける倫理(2): スポーツ指導者による体罰問題
- スポーツ指導者のセルフコントロール、選手とのコミュニケーション
- これまでのまとめ、理解度確認テスト
- 優れたスポーツ指導者の特徴について考える
- プレゼンテーションに向けた情報収集
- プレゼンテーション(1)
- プレゼンテーション(2)、総括

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア: PBL（課題解決型学習）	イ: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

- <予習>
- 毎回講義終了後に、次週の予告と講義内容に関するキーワードを提示するので、各自そのキーワードを参考に教科書や関連図書などを通じて予習しておくことが求められる（2時間程度）。
- <復習>
- 講義終了後に講義中に学習した内容について再度確認して整理しておくことが求められる。さらに、当日紹介したトピックと関連する実際の事例について新聞記事データベースなどを使って探し出し、コーチングに関する理解を深めることが望ましい（2時間程度）。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

コーチング論では、コーチングに関する諸理論を理解するだけでなく、実際に学習者（子供、部下、選手など）を効果的に導く方法の理解を目指す。この目標は、人間健康学科共通の卒業認定・学位授与の方針として掲げられている。子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身に付け、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身に付け、という点に貢献するものであり、したがってコーチング論は人間健康学科の卒業認定・学位授与の方針と密接に関連する科目である。

<学科共通>

ますます高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身に付け、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。

到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。コーチングに関する知識を体系的に学ぶことにより、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ、マネジメント力が発揮することができる。

<スポーツ健康コース>

地域貢献活動などのフィールドワークを通して身に付けた、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力が発揮することができる。

到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。フィールドワークこそ幅広いものの、コーチングに関する知識を体系的に学ぶことにより、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力が発揮することができる。

健康保持・増進やスポーツパフォーマンス向上などのための理論や指導法を学び、それを通して身に付けたプレゼンテーション能力に基づく効果的な指導ができる。

到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。

健康保持・増進やスポーツパフォーマンス向上などのための理論や指導法を学び、それを通して身に付けたプレゼンテーション能力に基づく効果的な指導ができる。

到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。到達目標とを達成することにより上記に貢献できる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

- Googleフォーム、またはMicrosoft Formsを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。
- クリックア（respon）を使って講義中に紹介した内容について学生一人ひとりから質問や感想を求めることがある。

**実務経験の有無及び活用**

なし

**備考**

- 授業の内容や進め方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する可能性がある。
- 対面授業を選択している受講生が一時的に通学困難になった場合は、対面授業中での対応となる。オンデマンド授業への移行措置はしない。
- 講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学籍番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。